

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	担当課
環境	1	印西カーボンニュートラルチャレンジ2025の計画書について	共通	まず、印西カーボンニュートラルチャレンジ2025の計画書について、いくつか疑問点があります。 環境保全課が事務局として機能できるか疑問です。過去に官民一体型の事務局を提案した経緯があります。 庁内の推進体制が本当に機能しているのか気になります。事業者会議の充実を要請してきましたが、外国系企業の参加がなく、疑問があります。 印西市として独自性のある計画があるのか不明です。 データセンターの集積地として世界的に知られている印西市が、世界モデル型のまちづくりを実践するチャンスだと思います。市有地を活用して地域型の新電力会社を設立することがその一環です。 以上が1つ目の提案です。	正直、もう少し時間が欲しいというのが個人的な感想です。計画が先行してしまったように感じます。印西市の場合、人口や産業が増える中で、現実的に実現可能な数値として40%が出されましたが、私は十分だとは思っていません。100%を目指すには技術革新が必要で、不確実性が高いと感じています。 計画書の作成を1年遅らせる意見もありましたが、国の助成の関係で期限が決まっており、現場の方々が努力して作成している状況です。今後は体制強化が必要です。専門的な知見を持つ人材を増やし、町全体としてのグリーンインフラを考える時期に来ています。 来年1年間で推進体制を見直し、専門人材を外部から迎えることも検討しています。カーボンニュートラル・チャレンジ2050はこれで終わりではなく、データセンターの集積地としての地域新電力の構想もあります。公共施設の再エネ利用も含め、地域新電力の検討を進めます。 EV化については、発電の部分や電源構成が変わらないと意味がないと考えています。環境基本計画や行政改革大綱も見直しが必要です。攻めのまちづくりには環境が重要で、管理組織の構築が必要です。 カーボンニュートラル・チャレンジについても、個別の政策に数値目標を設定し、達成可能かを検証したいです。就任して4カ月で、今年度中に計画書を固める必要があり、現実的に今できることを進めていきます。	—	環境保全課
環境	2	市役所の施設に地中熱ヒートポンプシステムを導入することについて	共通	2番目の提案は、市役所の施設に地中熱ヒートポンプシステムを導入することです。地中熱は地下約100メートルの深さで一定の温度を保っており、夏は涼しく、冬は暖かいです。この温度差をヒートポンプで利用することで、省エネ効果が期待できます。最近10年ほどで普及が進んでおり、印西市でも導入を検討すべきです。 まず、市の施設に導入して有効性を確認し、市民にアピールすることで、個人の住宅でも導入が進むと考えられます。		—	環境保全課
環境	3	いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050のための環境づくりについて	共通	3番目の提案は、いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050のための環境づくりについてです。 印西市がカーボンニュートラルを決定し、立派な資料を作成したことを評価しています。 温暖化防止対策は必要不可欠で、市民の参加が重要です。市民に温暖化防止の取り組みを知らせ、参加を促す方法を考える必要があります。 最近、郵便配達の軽自動車が電動化されていることに感心しました。印西市のふれあいバスも電動化し、温暖化防止のメッセージを発信することを提案します。		—	環境保全課
環境	4	C02ゼロを目指すための目標値について	共通	市民会議の一員として、2050年までにC02ゼロを目指す目標は変わらないが、2030年の目標が46%から40%にトーンダウンしたことに疑問を持っています。		—	環境保全課
環境	5	市長のマニフェストと第3次印西市環境基本計画、第6次印西市行政改革大綱との関係について	共通	市長のマニフェストと第3次印西市環境基本計画、第6次印西市行政改革大綱の関係について確認を求めています。計画の見直し時には、体制づくり、専門家の登用、DXの推進などを含めることを提案します。 川崎市の例を参考に、印西市地球温暖化防止活動推進センターの設立を提案します。		—	環境保全課

分類	N0.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	担当課
環境	6	C02ゼロを目指すための目標値について	共通	正直、2050年の技術目標は達成が難しいと感じています。経産省や環境省の担当者も、目標は作ったものの具体策がないと認識しています。それでも目標があるから進めるしかないのが現状です。 先日、四国の上勝町のゼロハウスを見学しました。資源化率75%で全国第3位です。住民の協力があってこそ達成できた結果です。同様に、脱カーボンについても目標はあるが、到達が難しいと感じています。そこで、みんながやる気になるようなキャンペーンや、現実に行っている施策の見える化が重要です。 川崎市の例のように、みんなで協力して進める環境づくりが大切だと思います。	おっしゃるとおりだと思います。この目標をより高めるために何をすべきか、皆さんの知恵をお借りしたいと思います。行政として何ができるかだけでなく、市民をどう巻き込むかを本気で考える必要があると感じました。	—	環境保全課
環境	7	世界モデル型のまちづくりについて	共通	市長が理想とする世界モデル型のまちづくりについてです。 現在、市の事業者会議には10社ほどの会員が参加していますが、印西市が世界のデータセンターの集積地であることが反映されていません。市民の立場からは、グーグルやアマゾンのような大企業の意見を取り入れるのは難しいと感じています。そこで、みんなを巻き込んで取り組む形を作れないかと考えています。 また、市有地を活用して発電所を作るアイデアもあります。大林組が印西市に土地を寄付していることもあり、土地の有効活用を含めて発電所を作ることを提案します。	事業者会議のメンバー構成については把握しています。ご指摘の点はそのとおりで、更新のタイミングも含めて検討したいと思います。 具体的な企業名は出せませんが、昨日も業者が表敬訪問してくれました。環境に対する配慮が進んでいる企業の知見を印西に取り入れることが重要だと感じています。 地域新電力については、全国の事例を調査しており、難しい点も承知していますが、可能性を模索していきたいと思います。担当課の人手不足もあり、すぐに対応するのは難しいですが、体制強化と併せて進めていきます。 まずは市有地や公共施設で何ができるかを検討し、早急に進めていきたいと思います。	—	環境保全課
環境	8	民間企業との協力について	共通	アマゾンなど、原山小学校への寄付や世界大会への出場など、非常に貢献している企業があると思います。そうした企業を市の取り組みに積極的に巻き込むことが重要だと思います。	市長としてトップセールスで企業を巻き込み、印西市の発展に貢献する姿勢はとても重要だと思います。アマゾンのような企業との連携を強化することで、さらに大きな成果が期待できると考えています。	—	環境保全課
環境	9	IPCCの報告について	共通	IPCCからは「この10年間の対策が数千年先まで影響する」という報告があります。これは、2050年にゼロになればいいというわけではなく、今すぐ行動しないと大変なことになるという意味です。 具体的には、2025年には温暖化の検証で減少に転じさせ、2035年には2019年比で60%減らす必要があります。この目標を達成しないと、数千年先まで影響します。現在の各国の方針では気温が3.1度上がると予測されています。今しかないという強い意識を持って、みんなで頑張る必要があります。 今やらないで後でやるという考え方は問題だと思います。	基礎自治体として地球環境問題は縁遠いと感じることもありますが、今が本当に大事な時期だと認識しています。時間がないことも理解していますが、形だけにはしたくありません。 政府が掲げた目標を追うだけではなく、今やらなければ地球がどうなるかを考えています。今回の目標はスタートであり、来年以降も継続的に取り組んでいきます。本当にこの10年が世界にとって重要だと思います。 限られた人的リソースの中で、やれることから進めていかなければならないと感じています。私も葛藤を抱えながら進めています。 市役所だけでなく、民間の力を活用することが重要ですね。企業や市民の協力を得ることで、より効果的に目標を達成できると思います。 民間の知見やリソースを活用しながら、印西市全体で取り組んでいくことが大切です。具体的なアイデアや提案があれば、ぜひ教えてください。これからも一緒に頑張りましょう。	—	環境保全課